

コロナ禍に顕在化した地域課題と社会福祉法人に期待される取組み

●コロナ禍に顕在化した地域課題

	具体的な課題		具体的な課題
課題1 外国籍居住者支援にかかる課題	(1)言葉や文化の違いに伴う課題 (2)在留資格によって公的な支援に課題 (3)外国にルーツをもつ子の子育て支援の課題 (4)地域とのつながりの不足と生活上の課題	課題4 複合的な課題	(1)2世代、3世代や複数の世帯員に課題 (2)複合的な課題とともに支援を拒否 (3)コロナ禍による孤立や困窮が課題をより複雑化 (4)単一の機関では領域外の課題解決が困難 (5)潜在化した課題が発見されずに複雑化
課題2 生活困窮者にかかる課題	(1)食支援や貸付だけでは対症療法にとどまり、生活の立て直しは困難 (2)支援は求めても相談につながりにくい (3)潜在化して支援が届きにくい (4)就労に向けた支援が難しい生活困窮者 (5)経済的な困窮以外の複合的な課題	課題5 小中高生等の次世代育成や福祉教育にかかる課題	(1)コロナ禍に学校からの福祉教育の依頼が減少 (2)コロナ禍に体験型の活動機会が減少 (3)地域社会での多様な人との関わりが減少 (4)地域において福祉教育の担い手の開拓が必要 (5)SDGs等への広がりや継続性につながるプログラムが必要
課題3 子ども・子育て、若者支援にかかる課題	(1)子育て家庭の孤立感・負担感の顕在化 (2)生活様式の変化の子育て家庭への影響 (3)生活に困窮する子育て世帯の増加 (4)日常生活の長期にわたる変化の子どもへの影響 (5)小学校高学年以上の若者世代の課題		

「コロナ禍で顕在化した地域課題への区市町村社協の取組み状況アンケート結果報告」(令和4年12月)より

●社会福祉法人に期待される取組みの例



【福祉教育】

- ▶コロナ禍で減少してしまった、学生と地域の当事者や福祉実践者との直接的な関わりを取り戻すため、学校等と連携して福祉教育の機会に協力する。

【住民の居場所づくり】

- ▶地域住民が気軽に立ち寄れる居場所づくりをすることで、地域の人と人をつなげ、子育て世帯や高齢者世帯、子どもやヤングケアラー、ひきこもりがちな方などへ、住民組織等と連携して孤独・孤立の解消をめざす。

【生活困窮者支援】

- ▶制度の狭間に落ちてしまい生活困窮の状態にある人へ、複数法人やさまざまな機関と連携して、食品等の提供や、住居の支援をする。また、相談機関等へつながりにくい層に対して、地域の身近な福祉施設として、必要な支援へつなげる役割を担う。

【総合相談支援】

- ▶失業、介護、障がい、虐待やDVなど、さまざまな生活上のSOSに対応して、関係機関や地域住民と連携し、必要な支援につなげる。

【災害支援】

- ▶災害時にも福祉施設としての機能をストップさせることなく、地域住民のニーズに応えるために、複数施設が連携して相互支援する仕組みの構築など。